

# 平成20年度 高知県普通会計決算見込みについて (ポイント編)

## 特 徴

### 各財政指標の改善

人件費や公債費といった義務的な経費の抑制など、これまでの財政健全化の取り組みや、地方再生対策費の創設などによる実質的な地方交付税が増になったことで、各財政指標が一定改善した。

- ・ 単年度収支及び実質単年度収支は平成17年度以来、3年振りの黒字（単年度収支:44百万円、実質単年度収支:6億48百万円）
- ・ 財政構造の硬直化を示す経常収支比率は、98.6%と前年度を0.3ポイント下回り、やや改善の兆しが見られる。
- ・ 起債制限比率は3年連続、公債費比率、県債現在高は4年連続の減

### 歳入歳出は9年連続の減

#### 【歳入】

国庫支出金や実質的な地方交付税が増になったものの、県債や県税、諸収入などの減により、54億23百万円の減

#### 【歳出】

国の経済対策にかかる基金の積立金が増になった一方で、人件費の抑制や貸付金の減により61億94百万円の減

#### 【繰越額の状況】

2月補正における国の経済対策に伴う事業が繰り越しになったことから、普通建設事業費の繰越額は264億円と前年度決算の2倍、平成15年度決算以来、5年振りに200億円を超える額となった。

### 将来に向けた基金の確保

#### ○財政調整的基金

国の経済対策の活用や地方交付税の大幅な増により、財政調整的基金（財政調整基金＋減債基金ルール外）の平成20年度末残高は、昨年7月の財政収支見通し時の試算額217億円から35億円増の252億円となった。

#### ○特定目的基金

国の補正予算の活用等により、経済活性化や雇用創出のための基金を造成するなど、特定目的基金の平成20年度末残高は290億6百万円（131億75百万円の増）となり、平成14年度以来、6年振りに200億円を超えた。